

科目名	健康と暮らしを守る看護	対象学年・時期	2年・前期
講師	非常勤講師及び専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間
授業概要	<p>わが国の少子・超高齢社会の伸展は著しく、人口の減少、なかでも生産年齢人口の減少は大きな課題となっている。「公助」が税負担、「共助」が被保険者負担を基盤としたものであれば、人口減少や生産年齢人口の減少は、それらの体制に影響をおよぼすことになる。さらに、家族形態の変化などの背景から「自助」「互助」の重要性は増している。</p> <p>この科目では、人々が住み慣れた地域で健康に暮らし続けるために、個々人が自発的に自身の生活課題を解決する力をもつ大切さを学んでいく。さらに個人の力だけでは解決が困難な状況で、個人や家族を取り巻く環境、例えば仲間同士の助け合いから互助組織の力などを借りて生活課題を解決する力の大切さを学んでいく。また、地域で暮らすということは地域社会（コミュニティ）を構成する一員ということである。自分自身もコミュニティの一員であり、支援の受け手でもあることの理解を通して、それぞれが役割をもちお互いに支え合うコミュニティづくりの大切さを学んでいく。この考え方を基に、地域に暮らす人々のつながりを看護に活かすことの重要性が理解できることを狙いとする。また、対象の特性に応じた健康課題や自助を促進する活動に関するトピックスなどをとりあげて、活動の実際を学ぶ。</p>		
授業形態	講義・グループワーク・プレゼンテーション		
学習目標	<p>1, 人は生活者であり、生活課題に対し、自発的に取り組んでいることが理解できる。</p> <p>2, 自発的に自身の生活課題を解決するための支援が理解できる。</p> <p>3, 地域の活動の実際から、コミュニティの持つ機能を考察できる。</p> <p>4, 地域に暮らす人々のつながりを看護に活かすことの重要性が理解できる。</p>		
	1回目:ガイダンス 1. 家族の暮らしのインタビューから健康に暮らすための自助を考える	【事前学習】 「家族の暮らしについてインタビューしよう」ワークシート	
	2～3回目:グループワーク 1. 生活課題を見つけ必要な支援を考える		
	4回目:グループワーク発表 1. 生活課題を見つけ必要な支援を考える		
	5回目:健康教育とヘルスプロモーション 1. 年代別の健康課題 2. 健康教育とヘルスプロモーション 3. 健康教育に必要な理論①		
	6回目:健康教育とヘルスプロモーション 1. 健康教育に必要な理論② 2. 地域社会と健康	【事後学修】 「身近な互助活動を探そう」ワークシート	
	7回目:トピックス 女性の健康（非常勤講師） 1. 女性が健康に暮らすための健康支援の実際		
	8～11回目:グループワーク 自分の暮らす地域の互助活動の実際を基に必要な支援を創造しよう		
	12回目:グループワーク 発表 自分の暮らす地域の互助活動の実際を基に必要な支援を創造しよう		
	13～14回目:トピックス ひきこもりの現状と支援策 グループワーク		
	15回目:レポート作成		

使用テキスト	随時資料を配布する
事前・事後学修	授業計画を参照。グループワーク課題については授業内で提示する。 課題提出日等は適宜授業内で指示するため、期限内に提出すること。
評価基準および評価方法	グループワークや課題レポートへの取り組みを総合的に評価する。
備考	グループワークとプレゼンテーションが多いため、各自スケジュールに合わせて、情報収集や検索など準備を行って、参加してください。